

頼りになります！ 京都市長寿すこやかセンター

発行：京都市保健福祉局長寿社会部長寿福祉課

電話：075(251)1106

平成26年1月

新しい年がやってまいりました。皆様はどんな新年を迎えられましたか？「見守りが必要な方を気にかけてながらのお正月だった」という方も多いかもしれませんが、今年も皆様にとって、よい年であることを願っております。

さて、今回のニュースでは、前回に引き続き、「認知症相談支援マニュアル(仮称)作成に関するアンケート」で「知りたい」との声が多かった「家族支援」「スタッフ支援」について活用できる関係機関として、「京都市長寿すこやかセンター」(親しみを込めて「すこセン」と記載しています)の事業をご紹介します。

1. 京都市長寿すこやかセンターとは

高齢者の方が住み慣れた地域でいつまでも健やかな生活を送ることができるよう、高齢者やその家族、支援する専門職への相談・援助や講座・研修・啓発、情報発信などを総合的に展開しています。

京都市の委託を受けて京都市社会福祉協議会が運営をしています。

五条通り

河原町通り

河原町正面

ひと・まち交流館 京都

4階

【住所】京都市下京区西木屋町通上ノ口上梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」4階

【電話】(075)354-8741

【FAX】(075)354-8742

【ホームページ】<http://sukoyaka.hitomachi-kyoto.jp/>

【メール】sukoyaka.info@hitomachi-kyoto.jp

【開所日/時間】月～土/9時～21時30分 日・祝/9時～17時

※17時以降の来所相談は、事前に来所予定日時の連絡が必要

【休所日】毎月第3火曜日(祝日の場合はその翌日) 年末年始(12/29～1/4)

2. 「すこセン」が高齢サポートにお勧めする事業

その1

『おれんじサロン ひと・まち』

若年性認知症の初期から中期の人や、初期認知症の人の本人交流会です。茶話会や体操等で、和やかに楽しく交流しています。

日時：毎月第3水曜日14時～15時30分

場所：ひと・まち交流館京都

定員：10名

※参加希望者は、「すこセン」に要事前相談。

また、別室では「認知症の人の介護家族交流会」が開催されています。

仲間がほしい
本人・家族に

その2『高齢者虐待事例研究会』

高齢者虐待の困難事例について、弁護士や医師等の専門家チームと一緒に考えます。

「すこセン」で定期的に開催している研究会に事例提供者として参加する「参加型」と、地域で行うカンファレンスの場に専門家を派遣してもらえる「派遣型」とがあります。

開催頻度：「参加型」は2か月に

1回、奇数月に開催。

「派遣型」は適宜開催。

※参加・派遣の申込みは「すこセン」まで。

ケース
支援の
検討に

地域で
の事例
検討に

4. 「すこセン」の、家族支援や地域支援、スタッフ支援に活用できる



発行物

※いずれの発行物も、入手を希望される場合は「すこセン」にご相談ください。(その4は在庫僅少です)

また、その1・その3・その5は、「すこセン」のホームページからダウンロードできます。

その1 知ろう・防ごう高齢者への虐待 ～虐待のない地域を目指して～

一般向けパンフレット(全7ページ)

内容：5つの虐待の分類とその例、虐待が起こる背景や気づきのためのサイン、養護者への支援も盛り込まれています。なかでも気づきのためのサインには、5つの分類ごとのサインのほかセルフネグレクトのサインや養護者、地域からのサインも記載されておりとても充実しています。

活用例：民生委員や老人福祉員を対象とした地域の学習会や、事例検討会に活用できるのではないのでしょうか。

その2 高齢者への虐待防止 クリアファイル

活用してもらえ
啓発グッズです

内容：どんな時に相談すればよいか、また、その相談先の電話番号(高齢者110番)がわかりやすく書かれています。片面が半透明になっていて使いやすいと好評です。

活用例：地域の学習会で、資料と一緒に配布すると手元に残してもらいやすく、いざという時に役に立ちます。

その3 ホームケアハンドブック 認知症の方の在宅介護

一般向け冊子(全43ページ)

家族支援に

内容：介護者の負担軽減に配慮した、認知症の方の在宅介護に必要な情報をまとめた冊子です。さまざまな症状や行動に対する介護の工夫等、在宅で支える家族に伝えたい情報がたくさん盛り込まれています。

活用例：高齢サポートが普段会えない家族への情報提供として、また、本人の前では話題にしにくい介護者へのメッセージを伝える手段として家族に提供することができます。

その4 高齢者の権利擁護相談の手びき ～高齢者を権利侵害から守り すこやかな暮らしを支援するために～

専門職向け冊子(全86ページ)

新任スタッフの
学びに

内容：高齢者虐待の対応に関する基本的な姿勢や、家庭内のリスクが確認できる「高齢者虐待リスクアセスメント表」、クーリング・オフや遺言等、権利侵害の予防から対応、活用できる資源まで、高齢者の権利擁護に必要な情報が網羅されています。

活用例：高齢サポート職員の学習や、ケアマネジャー等専門職の支援の手引きに。

その5 レクでいきいき! 老人福祉センター生きいきサロンレクリエーション職員実践集

専門職向け冊子(全72ページ)

内容：高齢者が楽しめる22のゲームや実施のポイントが書かれています。

活用例：地域の人が集まる場で、参加者同士の交流を促したいときに。

・居場所づくりの手引
きに
・講座のアイスブレイ
クにも

その6 高齢者サロン情報ガイドブック

専門職向け冊子(全54ページ)

内容：地域で実施されているサロンの内容や場所が紹介されています。

活用例：地域資源の把握や、地域の人への情報提供に。

5. 「すこセン」スタッフが担当する地域

皆さんと一緒に
高齢者支援
をしたい!

担当する地域の地域包括支援センター運営協
議会や、権利擁護ネットワーク、認知症ネッ
トワーク等に可能な限り参加しています。



《左京、山科、醍醐、深草》 沖永さん

《中京、下京、南》 菊池さん

《上京、右京、西京(洛西含む)》 勝田さん

《北、東山、伏見(醍醐・深草除く)》 横田さん

編集後記

地域のこと対象者のこと等、何かと背負い込んでしまいがちな高齢サポートですが、連携やコーディネーターは高齢サポートの得意とするところです。他の専門職の力を借りたり、思い切って委ねてみたりすることがよい結果や新しい気づきを生み出してくれるかもしれません。

皆さんが元気に活躍する姿が地域の人達の、そして私達の励みです。慌ただしい毎日ですが、病氣や怪我、事故に留意され元気な顔でまたお会いできる日を楽しみにしています。

(清水)